

2022 年度 事業報告書

(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)



目次

理事長挨拶	1
I. 法人概要	
1. 学校法人の沿革	4
2. 大学の理念	8
3. 大学運営組織図	10
4. 役員・評議員の概要	11
5. 設置する学部学科・研究科の名称及び 入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数	13
II. 事業の概要	
1. 第五次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業	14
2. 地域貢献事業	23
3. 学生活動の実績	29
4. 学事報告	32
III. 事業の概要（データ）	
1. 志願者数・合格者数・入学手続者数	35
2. 入学金、授業料等の費用	35
3. 学内奨学金支給実績	36
4. 単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況	37
5. 主な資格取得状況	38
6. 就職率	38
7. 卒業者数・修了者数	39
8. 卒業者数累計	39
IV. 財務の概要	
1. 資金収支計算書	40
2. 事業活動収支計算書	41
3. 貸借対照表	42
4. 経年比較表 ①資金収支計算書 ②事業活動収支計算書 ③貸借対照表	44
5. 主要な財務比率	48
6. 事業活動収支関連グラフ	49

理事長挨拶

2022 年度の事業報告にあたりご挨拶を申し上げます。

平素は関係者の皆様方には、多くの御指導、御協力、御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学は沖縄大学憲章に基づく長期ビジョン Okidai Vision 2028「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の実現に向けた第五次中期計画（5 年間の中期計画）を策定し、自己点検・評価活動に基づく質保証を推進しております。理念達成のための事業計画を「重点課題」、大学としての基盤を堅実に維持するための事業計画を「基本課題」と位置づけ、教育活動や業務を推進しました。

長期ビジョンで掲げる将来像を実現する第五次中期計画の 4 年目にあたる「2022 年度事業報告書」がまとまりましたので、以下概況を御報告致します。



学校法人 沖縄大学
理事長 佐喜真實

（１）収支財政状況

2022 年度事業活動収入の合計は 2,838 百万円（前年比 174 百万円増、予算比 47 百万円増）、事業活動支出は 2,725 百万円（前年比 106 百万円増、予算比 120 百万円減）となりました。

基本金組入前当年度収支差額はプラス 113 百万円となり、本業である教育活動収支差額は、プラス 128 百万円でした。

収入においては、2019 年度に開設した健康栄養学部が完成年度を迎えたことや、学生募集が引き続き堅調に推移していることもあり、学生生徒納付金収入は前年比 165 百万円増となりました。支出では、新型コロナ禍の影響で過去 2 年間、様々な活動を縮小せざるを得なかった状況から、今年度、徐々に教育研究活動が通常に戻り始め、経費が増えたこと、人件費において退職給与引当金繰入額が前年比 60 百万円増えたこと等により、教育活動支出全体としては前年比 110 百万円増となりました。

今年度の事業活動収支差額比率は、プラス 4.0%です。同比率の推移を見ますと、健康栄養学部開設当初は収支のアンバランス（人員や施設設備は開設時には揃えるため支出は大だが、学生は 1 学年ずつしか増えないため収入は小）により、2019 年度（1 年目）はマイナス 5.2%、20 年度（2 年目）はマイナス 2.6%でしたが、学年進行に伴い、2021 年度（3 年目）はプラス 1.7%、今年度（4 年目）はプラス 4.0%と設置当初の見込みどおり黒字を確保することができました。今後はプラス 10%以上を達成・維持できるよう、入学者の安定確保や退学率の削減、競争的補助金の獲得、経費の見直し等を行い、経営基盤の強化と教育環境の維持改善に努めてまいります。

（２）アフターコロナに向けた動き

昨年度までは、新型コロナ禍により、各学科・各部署の事業を計画通りに進められない状況もありましたが、今年度は対面での行事開催も増えました。昨年度まではハイブリッド形式での開催となっていた経法商学部のゼミナール大会も対面で開催し、国際コミュニケーション学科の

外国語チャンプルーフェスタも 3 年ぶりの開催となりました。アフターコロナを見据え、大学にも学生の活気が徐々に戻ってきた一年になりました。

（３）コロナ禍で得た知見を活かした取り組み

経法商学部は公務員対策講座は対面だけでなく、オンライン講義も受講できる体制で学修をサポートするなど、学生の利便性をより高める工夫がありました。国際コミュニケーション学科も、Zoom やビデオチャットなどのツールを活用することで、海外へ長期留学中の学生と交流するなど、柔軟かつ機動的な取り組みが見られました。福祉文化学科でも、卒業生や同窓会と連携した社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験激励会が開催され、卒業生と在学生在がオンラインで集い、試験対策についての情報交換を行いました。

アフターコロナではすべてを以前と同じように戻すのではなく、コロナ禍で得られた新たな教育の知見を取り入れる工夫が行えたことは大きな収穫でした。

（４）「地域共創」の取り組み

国際コミュニケーション学科は、那覇市観光協会と連携し、インバウンド向けに那覇の魅力を発信する動画作成、那覇市社会福祉協議会の要請を受けて実施した曙小学校での日本語通訳ボランティア派遣を実施。福祉文化学科は、上間小学校への学習ボランティアの派遣を実施。管理栄養学科は、那覇市社会福祉協議会と連携したこども食堂で活用できるレシピの開発、沖縄県知事と学生の対話キャラバンによる意見交換を実施など、地域と連携した「共創」の取り組みが行われました。地域共創の実践的な取り組みは、学生の「主体的な学び」を呼び起こす貴重な機会になったと考えております。

また、那覇市社会福祉協議会との包括連携協定締結、首里まちづくり研究会との包括連携協定締結など、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」をスローガンとする長期ビジョンの体现を目指した協定が締結されました。

（５）健康栄養学部完成年度 管理栄養士国家試験 56 名合格

2022 年度は健康栄養学部の完成年度という節目でもありました。4 年生の臨地実習では、実習受け入れ先の皆様の協力を得て実施することができました。管理栄養士国家試験では 72 名が受験し 56 名が合格することができました。（合格率 77.8%）

（６）学生の活躍

2022 年度も学生達が頑張ってくれました。仲地礼亜さん（福祉文化学科）の中日ドラゴンズ 1 位指名は特に大きなニュースでした。立浪監督が直々に指名挨拶に来学するなど、大学が大いに湧いた 1 年になりました。

硬式野球部は 2 季連続 43 度目の優勝と南部九州地区大学野球大会で優勝、軟式野球部も秋季大会全勝で全国大会へ出場、陸上競技部安里良也さん（福祉文化学科）全国大会へ出場、九州学生陸上競技選手権大会で阿波根朱里さん（管理栄養学科）女子 100m H 優勝、水球部も創部 4 年目で九州大会を初制覇、E T ロボコン 2022 沖縄地区大会で沖大チームが総合優勝など、素晴らしい活躍をしてくれました。経法商学科卒業生の根間玄実さんが司法試験にストレート合格と

いう嬉しい報告もありました。

教員採用試験についても、こども文化学科と教職支援センターとが協働し、着実な実績を積み重ねることができました。（教員採用試験合格者数合計 49 名：現役 16 名、過卒 33 名）。

アフターコロナを見据えた教育の質を維持・向上させる工夫を行い、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の長期ビジョンの達成を目指した取り組みを着実に進めることで、学生の「夢創造・夢実現」につなげていきたいと考えております。

学生・保護者、地域社会の期待に応えられるよう役職員一丸となって「地域共創・未来共創」への歩みを進めてまいりますので、今後とも引き続き関係各位の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

* 文中の金額は単位未満切り捨てで表示

I. 法人概要

1. 学校法人の沿革

- 1956 年 11 月 財団法人 嘉数学園設立認可
- 1958 年 6 月 沖縄短期大学開学式
- 1960 年 12 月 学園本館、図書館竣工
- 1961 年 2 月 沖縄大学設置認可、沖縄短期大学は沖縄短期大学部へ変更
- 4 月 沖縄大学入学式
- 5 月 沖縄大学開学祝賀式典
- 1962 年 2 月 嘉数学園創立 5 周年記念式典
- 4 月 大学ビル竣工
- 1964 年 9 月 学生会館竣工
- 1966 年 11 月 西原総合グラウンド完成
- 1968 年 11 月 沖縄大学創立 10 周年記念式典
- 1972 年 10 月 全国大学準硬式野球大会優勝
- 1974 年 12 月 公開講座開始
- 1976 年 1 月 土曜教養講座開始
- 2 月 移動市民大学開始（宮古・八重山）
- 1978 年 4 月 「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」の理念を打ち出し、新生沖縄大学として再出発
- 1979 年 2 月 入試制度改革
- 4 月 本土派遣学生制度発足（立命館大学、上智大学）
- 4 月 「沖縄大学広報」創刊号発行
- 1981 年 4 月 本土派遣学生制度（法政大学）
- 4 月 4 ヶ年一貫ゼミナール体制の確立
- 6 月 沖縄大学創立 20 周年及び沖縄短期大学 23 周年記念祝賀会
- 7 月 創立 20 周年記念事業「教育実践セミナー」開催
- 1982 年 9 月 琉球弧縦断移動市民大学開始
- 1983 年 7 月 「沖縄戦と基地問題を考える沖縄セミナー」開始（1990 年度まで実施）
- 1984 年 11 月 第 100 回土曜教養講座
- 1985 年 2 月 1 号館竣工
- 2 月 津田塾大学と単位互換協定締結
- 1988 年 4 月 沖縄短期大学を沖縄大学短期大学部に名称変更
- 6 月 沖縄大学創立 30 周年記念式典同記念事業「沖大地域研究所の設立」及び「沖大後援会奨学金及び特別奨学金制度の創設」
- 1989 年 11 月 2 号館・図書館棟竣工
- 11 月 体育館移管
- 1990 年 3 月 札幌大学と単位互換協定締結

- 1991 年 3 月 旭川大学と単位互換協定を締結
- 3 月 和光大学と単位互換協定を締結
- 4 月 中国・中央民族大学と学術・教育交流協定を締結
- 5 月 沖縄大学と沖縄尚学高校を経営する法人の分離
- 6 月 第 200 回土曜教養講座
- 7 月 「沖縄大学広報」 50 号発行
- 1992 年 12 月 京都精華大学と単位互換協定を締結
- 1996 年 12 月 法経学部法経学科設置認可
- 1997 年 1 月 放送大学と単位互換協定を締結
- 1997 年 4 月 法経学部法経学科の開設
- 1998 年 12 月 人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科設置認可
- 1999 年 3 月 3 号館竣工
- 4 月 人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科の開設
- 8 月 岐阜経済大学と単位互換協定を締結
- 10 月 沖縄大学マルチメディア教育研究センター設立
- 2000 年 4 月 シスコ・ネットワークング・アカデミー開講
- 7 月 台湾・東海大学と学術・教育交流覚書を締結
- 2001 年 5 月 韓国・聖公会大学と学生交流及び学術交流協定締結
- 10 月 沖縄大学エコキャンパス宣言
- 2002 年 4 月 第 1 回ジュニア研究支援
- 5 月 国際規格 ISO14001（環境マネジメントシステム）審査登録
- 2003 年 1 月 シドニー工科大学と学生交流協定を締結
- 4 月 早期卒業制度、長期履修制度の導入
- 4 月 寄付講座規程制定
- 4 月 （財）大学基準協会正会員登録
- 2004 年 1 月 東京国際大学と単位互換協定を締結
- 5 月 法政大学と単位互換協定を締結
- 11 月 「沖縄大学広報」 100 号発行
- 2005 年 4 月 沖縄大学大学院 現代沖縄研究科を開設
- 7 月 茨城キリスト教大学と単位互換協定を締結
- 7 月 第一次中長期経営計画（2005～2007 年度）を策定
- 2006 年 4 月 学生部に学生生活支援室を新設
- 6 月 広島修道大学と単位互換協定を締結
- 2007 年 3 月 大学基準協会認証評価・相互評価
- 4 月 人文学部こども文化学科の開設
- 7 月 「菓子等食品ビジネスプランナー養成プログラム」が文科省の社会人学び直し GP に採択
- 7 月 「美ら沖縄・環境まちづくりリーダー養成事業」が文科省の現代 GP に採択
- 8 月 「ノートテイクから広がる大学づくり」が文科省の特色 GP に採択

- 「学びあい・支えあいの地域教育の拠点創生」が文科省の学生支援 GP に採択
- 2008 年 5 月 西安交通大学との友好交流協定を締結
- 6 月 開学記念日 沖縄大学 50 周年記念式典・祝賀会
- 6 月 新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」
- 6 月 創立 50 周年記念史『小さな大学の大きな挑戦』を刊行
- 11 月 第二次中長期経営計画（2008 年度～2010 年度）を策定
- 2009 年 8 月 第一回教職合同研修会を開催
- 8 月 「産学連携業界別就職特別セミナーの開設」が文科省の学生支援 GP に採択
- 8 月 「全国の地域で活躍できるプロフェッショナルくまづくりリスト」育成プログラム」が文科省の戦略的産学連携支援プログラム（戦略 GP）に採択
- 9 月 「清ら島づくり南西諸島高大連携プログラム」が文科省の大学教育推進プログラム（学生支援 GP）に採択
- 2010 年 1 月 「学校法人沖縄大学」へ法人名変更
- 5 月 「沖縄県福祉のまちづくり推進功労者」沖縄県知事賞受賞
- 6 月 新本館・体育館竣工記念式典・祝賀会
- 11 月 上海・東華大学との学術交流協定を締結
- 2011 年 6 月 台湾・金門大学との学術交流協定を締結
- 7 月 第三次中長期経営計画（2011～2013 年度）を策定
- 5 月 那覇市制施行 90 周年記念特別表彰「教育・スポーツ功労部門」 表彰
- 2012 年 4 月 「地域共創センター」開設
- 4 月 人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻、スポーツ福祉専攻の 2 専攻へ
- 7 月 第 56 回沖縄タイムス賞・社会活動賞受賞
- 10 月 新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」を沖縄大学憲章へ改称
- 11 月 第 500 回土曜教養講座開講
- 2013 年 4 月 経営企画室を新設
- 2014 年 2 月 学生歌「未来に続く学舎で」（作詞：糸澤幸子 作曲：知花竜海）制作
- 3 月 大学基準協会認証評価・相互評価により大学基準適合認定（2014～2021 年度）
- 3 月 第四次中長期経営計画（2014 年度～2017 年度）を策定
- 2015 年 2 月 那覇市と学校法人沖縄大学との包括連携協力に関する協定を締結
- 2 月 日本聴覚障害高等教育支援ネットワークに加盟
- 4 月 図書館にライティングセンターを設立
- 11 月 私立大学等改革総合支援事業タイプ 2「地域貢献」選定
- 2016 年 2 月 留学生別科閉科
- 11 月 私立大学研究ブランディング事業（タイプ A）採択
- 2017 年 1 月 沖縄大学アネックス共創館及び隣接小グラウンド、整備開始
- 3 月 私立大学等改革総合支援事業タイプ 1「教育の質的転換」選定
- 4 月 沖縄大学アネックス共創館 供用開始
- 6 月 関東学院大学と大学間交流協定締結
- 2018 年 2 月 私立大学等経営強化集中支援事業（タイプ A） 選定

2018 年 6 月 学生食堂『TERRACE 555』オープン
 6 月 沖縄大学創立 60 周年記念式典・祝賀会
 6 月 歴史資料展示エリア設置
 6 月 沖縄大学長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028』骨子策定
 8 月 健康栄養学部管理栄養学科 設置認可
 11 月 創設者「嘉数昇」先生胸像設置
 12 月 4 号館（新学部棟）竣工
 2019 年 2 月 私立大学等経営強化集中支援事業 選定
 3 月 長期ビジョン OKIDAI VISION 2028 を策定
 3 月 第五次中期計画（2019 年度～2023 年度）を策定
 4 月 健康栄養学部管理栄養学科の開設
 2020 年 3 月 長田第四駐車場完成
 4 月 法経学部法経学科を「経法商学部経法商学科」に名称変更
 2021 年 3 月 長田第五駐車場完成
 2021 年 4 月 法務監査室を新設
 2021 年 12 月 アネックス共創館 3 階・4 階改修工事完了
 2022 年 11 月 1 号館 5 階改修工事完了

2. 大学の理念

沖縄大学憲章

～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は、創立 50 周年の記念日を迎えるにあたり、「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな大学の理念として確認し、以下の 3 つの目標を立て、実行することを宣言しました。

1. 地球市民・地域市民の共育の拠点

(1)地球市民のための知の集積の拠点:

沖縄大学の大学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21 世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす 21 世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

(2)地域市民のための地域教育の拠点:

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

2. 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

(1)地球環境に取り組む実践教育:

21 世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来ありません。沖縄大学は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

(2)地域環境に取り組む研究提言:

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間 150 兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

3.共創力を育む大学教育への変革

(1)ユニバーサルな大学づくり:

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

(2)人間力としての共創力の涵養:

沖縄大学が育成をめざす 21 世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした 21 世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心 と理解力を高めます。

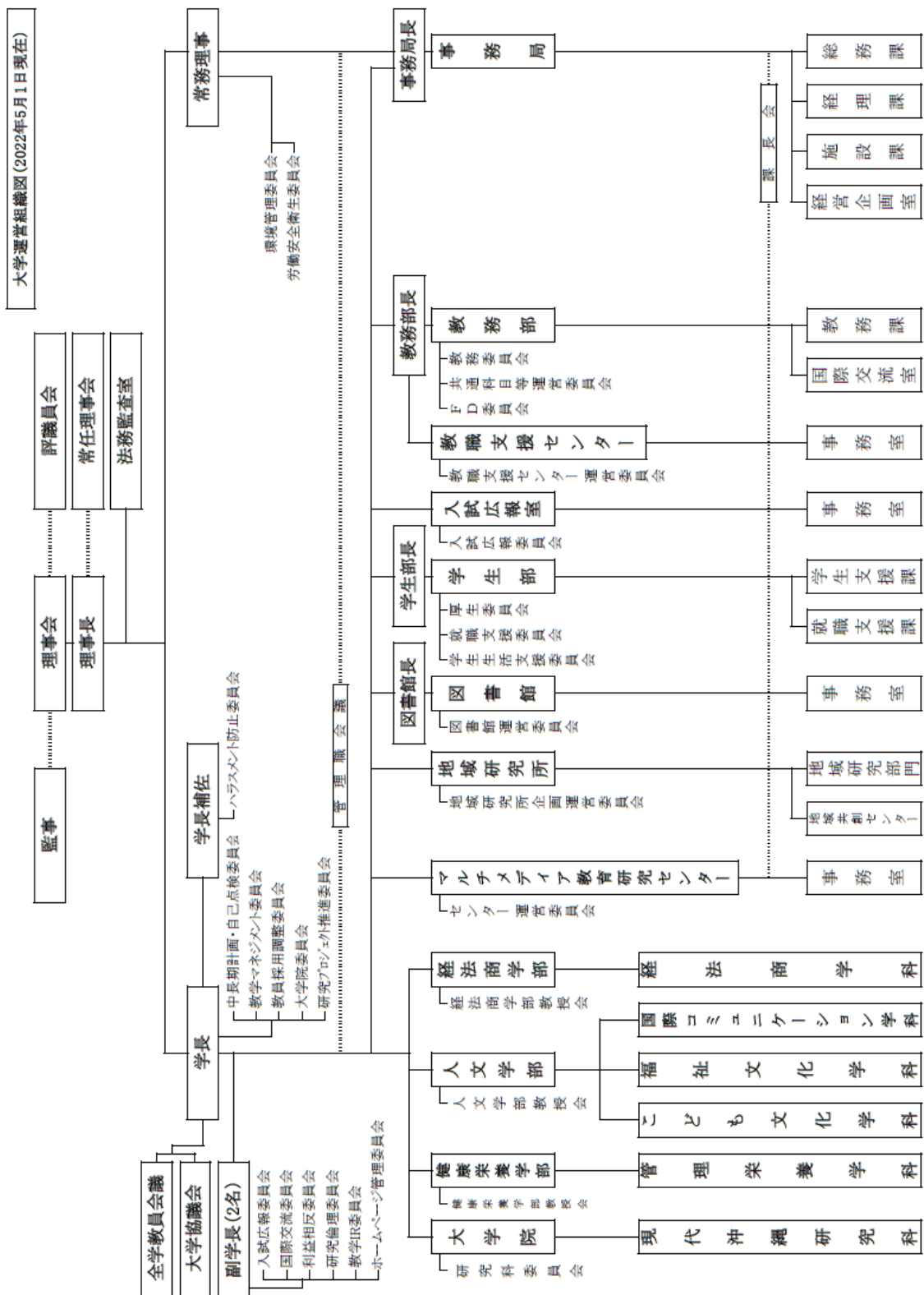
「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助け合い、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

(3)学生主体の学びの場の共創:

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って 大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の 3 つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。

3. 大学運営組織図



4. 役員・評議員の概要

(1) 役員 (2023 年 3 月 31 日現在) 理事：定員数 5～10 人・現員数 9 人 監事：定員数 2 人・現員数 2 人

種別	氏名	担当職務・現職	選出根拠
理事	佐喜真 實	理事長 (元(株)琉球銀行執行役員・元(株)りゅうぎん総合研究所代表取締役社長)	学識経験者
	山代 寛	学長 (健康栄養学部教授)	学長
	金城 敬	常務理事 (元沖縄大学経営企画室長)	評議員
	黒木 義成	副学長 (人文学部教授)	評議員
	崔 珉寧	副学長兼図書館長 (経法商学部教授)	評議員
	森田 泰弘	学長補佐 (法務監査室 室長)	評議員
	當真 良明	弁護士法人サイオン総合法律事務所代表弁護士	学識経験者
	仲里 武思	沖電開発株式会社 代表取締役社長	学識経験者
	高良 茂	(株)沖縄銀行 常務取締役	学識経験者
監事	外間 政康	(株)沖縄海邦銀行 常勤監査役	寄附行為第 7 条
	島袋 健	(株)琉球銀行 常務取締役	寄附行為第 7 条

(2) 評議員 (2023 年 3 月 31 日現在) 定員数 13 人～24 人・現員数 22 人

種別	氏名	担当職務・現職	選出根拠
評議員	喜納 憲利(議長)	元(株)りゅうせき常勤監査役 元(株)未来相互ガス監査役	学識経験者
	山代 寛	学長 (健康栄養学部教授)	学長
	黒木 義成	副学長 (人文学部教授)	副学長
	崔 珉寧	副学長兼図書館長 (経法商学部教授)	副学長
	豊川 明佳	経法商学部長 (経法商学部教授)	学部長
	喜屋武政勝	人文学部長 (人文学部教授)	学部長
	新城 正紀	健康栄養学部長 (健康栄養学部教授)	学部長
	嘉数 健悟	教務部長兼教職支援センター長 (人文学部教授)	教務部長
	大城 貴之	学生部長 (就職支援課長)	学生部長
	金城 直樹	事務局長 (経営企画室長)	事務局長
	糸数 晃	沖縄大学総務課主幹	職員
	城間 尚樹	沖縄大学図書館事務長	職員
	大城 達司	沖縄大学施設課 課長	職員
	金城 正弘	沖縄大学同窓会顧問	卒業生
	山城 成人	久米島製糖(株) 取締役	卒業生
	棚原 勝也	沖縄大学同窓会長 琉球朝日放送(株)営業ビジネス統轄本部編成局編成部長	卒業生

佐喜真 實	理事長（元(株)琉球銀行執行役員・元(株)りゅうぎん総合研究所代表取締役社長）	学識経験者
金城 敬	学校法人沖縄大学 常務理事	学識経験者
森田 泰弘	学長補佐（法務監査室 室長）	学識経験者
金城 正秀	おきぎん保証株式会社 総務部 部長 同窓生	学識経験者
宮沢 賢	宮沢財務管理オフィス株式会社 代表取締役	学識経験者
照屋 正	医療法人涼音会 理事 整形外科てるクリニック事務長	学識経験者

(3) 役員賠償責任保険契約の状況

1. 団体契約者： 日本私立大学協会
2. 保険責任期間： 2022 年 4 月 1 日～2023 年 4 月 1 日
3. 記名法人名： 学校法人沖縄大学
4. 被保険者
 - ・個人被保険者： 理事・監事、評議員、理事会で選任した管理職従業員（事務局長）
 - ・記名法人： 学校法人沖縄大学
5. 補償内容

法律上の損害賠償金、争訟費用、損害賠償請求対応費用、公的調査等対応費用、刑事
手続対応費用、財産または地位の保全手続等対応費用、信頼回復広告費用
6. 保険期間中総支払限度額： 3 億円
7. 引受保険会社： 東京海上日動火災保険株式会社

5. 設置する学部学科・研究科の名称及び

入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数

2022年5月1日現在

設置する 学校名	学部	学科	入学 定員	入学 者数	編入学 定員	編入学 者数	収容学生数		専任者数	
							定員	現員	教員 数	職員 数
沖縄大学	経法商 学部	経法商学科	220	259	5	10	890	1,027	74	56
	人文 学部	国際コミュニケーション学科	80	88	3	6	326	366		
		福祉文化学科	120	152	6	12	492	519		
		こども文化学科	50	56	3	3	206	220		
	健康栄養 学部	管理栄養学科	80	84	若干名	0	320	321		
	計		550	639	17	31	2,234	2,453		
	大学院	現代沖縄研究科	10	2	—	—	20	6		

Ⅱ. 事業の概要

1. 第五次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業

～沖縄大学憲章、長期ビジョンの実現に向けた事業計画～

沖縄大学は2018年の60周年の節目に、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」の実現に向けてどのような取り組みを進めていく必要があるのか検討を行い、憲章を実現するための10年間の長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028“地域がキャンパス、地域のキャンパス”～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります～』を打ち出しました。

長期ビジョンの策定にあたっては、沖縄大学憲章の「地域共創・未来共創の大学へ」の3つ目標（1. 地球市民・地域市民の共育の拠点 2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究 3. 共創力を育む大学教育への変革）を具体化した3つの将来像（1. 沖縄大学という場 2. 沖縄大学の教育・研究 3. 沖縄大学の学生像）と、社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像（4. 沖縄大学の新たな挑戦）の4つのテーマを掲げました。

【沖縄大学憲章】

【長期ビジョンのテーマ】

- ・ 沖大憲章 1. 地球市民・地域市民の共育の拠点・・・・・・・・・・1. 沖縄大学という場
- ・ 沖大憲章 2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究・・・・2. 沖縄大学の教育・研究
- ・ 沖大憲章 3. 共創力を育む大学教育への変革・・・・・・・・・・3. 沖縄大学の学生像
- ・ 社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像・・・・・・4. 沖縄大学の新たな共創への挑戦

また、この長期ビジョンを実現するために、5年間の中期計画（第五次中期計画）を同時に策定しました。中期計画においては、沖縄大学憲章をふまえた長期ビジョンの4つのテーマを、沖縄大学の特色を打ち出す「重点課題」としています。

一方で、大学は理念に向けて日々努力を積み重ねるだけでなく、理念を実現するためにも大学としての基盤を堅実に維持しなければならないというミッションも持っています。そのため、「激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化」についても、長期ビジョンで取り組むテーマとしています。第五次中期計画では、第四次中長期経営計画で掲げられていた「基本戦略」を引き継ぎ、大学の基盤を固めるために必要な「基本課題」としています。

「重点課題」と「基本課題」の各テーマは、中期計画に即した各年度事業計画で計画・実施し、事業の進捗については4段階で管理しています（0 未着手、1 問題有、2 順調、3 終了）。

■「重点課題」・・・長期ビジョンが掲げる「1. 沖大という場」「2. 沖大の教育・研究」「3. 沖大の学生像」「4. 沖大の新たな共創への挑戦」の4テーマ

■「基本課題」・・・「A 志願者」「B 中退者」「C 社会接続」「D 経営基盤」の4テーマ

第五次中期計画の4年目にあたる2022年度は、学科、研究科、部課局等の部署のレベルにおいて「重点課題」と「基本課題」の両面から計画を立て、事業に取り組みました。

重点課題1. 沖大という場 ～地球市民・地球市民共育の拠点～

＜人文学部 国際コミュニケーション学科＞

- ・3年ぶりに外国語チャンプルーフェスタを開催し、本学の学生（留学生を含む）が外国語でのパフォーマンスを行いました。久しぶりの対面でのイベント開催となり、学生にとって実りのある機会となりました。
- ・末吉ゼミでは那覇市観光協会と連携して外国人目線から見た那覇の魅力を発信する動画を作成し、実際に観光客向けに上映を行うことができました。
- ・ホーチミン師範大学から2名の留学生を受け入れることができました。また、VR空間を活用し、台湾の大学と（1学期間）交流授業を行いました。

＜人文学部 福祉文化学科 社会福祉専攻＞

- ・地域社会貢献活動として、上間小学校への学習ボランティアを派遣しました。3名の学生により、延べ15時間の学習支援を行いました。
- ・教員が企画した講座を実施し、好評を得ました。（高良沙哉「女たちの50年」、島村 聡「沖縄子ども白書」、玉木千賀子「聞き書き」「ケアリングコミュニティ」、嘉数 健悟・中山健二郎「部活動」、名城 健二「スクールソーシャルワーク」）

＜人文学部 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻＞

- ・糸満市の高齢者対象のミニデイサービス活動を6月・7月の2か月間（6回）実施しました
- ・豊見城市社会福祉協議会 真嘉部コミュニティーセンターで「子ども広場」、「学習支援」の児童支援を2022年9月～2023年1月（土日を除く）にゼミ学生が毎日分担して実施しました。
- ・学生主催により、地域のクラブと交流するボッチャ大会や、ソフトボールの交流プログラムなど、障がい者スポーツイベントを実施しました。
- ・障がい者スポーツ教育プログラムの成果検証を行い、人文学部紀要にて報告しました。
- ・ゼミ活動として県内のLGBTQ+支援団体と合同研修を行いました。
- ・県総合教育センターで教員対象にジェンダー・セクシュアリティの発達と教育相談について講座を開催しました。（こども園～高等学校）
- ・教務課と連携し、入学前課題（講義参加型）に参加する県外出身学生、離島出身学生に旅費補助ができる仕組みを作りました。

＜人文学部 こども文化学科＞

- ・学生がDPに即して自己評価するために「2年次・4年次用 学修進路相談チェックシート」を実施しました。
- ・Zoomを利用した遠隔での学科行事（卒論発表会等）を行いました。準備・運営が難しい側面もあり、過密スケジュールと過重な準備を、いかにバランスとるか課題がある中、ゼミ長会およびゼミ長が企画・運営を立派に果たしました。
- ・県外・離島出身学生へのサポートを教員間の情報共有を基盤に進めました。

＜健康栄養学部 管理栄養学科＞

- ・那覇市社会福祉協議会を中心としたこども食堂の支援を行うことができました。沖縄県知事との対話キャラバン（新・21世紀ビジョン基本計画に関する懇談会）を健康栄養学部棟において実施し、本学科の特徴を説明して学生が県知事と意見交換を行うことで地域におけ

る管理栄養士の役割等について周知を図ることができました。

<国際交流室>

- ・2022年度の受入については0名でしたが、翌年度、ホーチミン師範大学から2名の学生受入れに向けて、準備を進めました。また、派遣については、聖公会大学（韓国）2名、延世大学（韓国）1名、東海大学（台湾）1名、エヴァレットコミュニティカレッジ（アメリカ）1名、ヨーク大学（カナダ）2名、ジョージアンカレッジ（カナダ）3名の合計10名の派遣を行いました。

<学生支援課>

- ・コロナによりメンタル不調が増え、フォローが必要なケースが発生しましたが、保健室、学生生活支援室、障がい学生支援における専門スタッフによる相談及び支援（カウンセラーとの関係含む）により、適切な対応を行いました。
- ・各種トラブル防止・予防教育支援として、新入生には「学生生活のてびき」や安全に関するパンフレット等を配布し、適宜、メール等で注意喚起を行いました。

<地域研究所>

- ・コロナ禍における学内の活動指針に則って、公開講座を18回開催し、受講機会を増やしました。遠隔での開催のため、離島地域や県外からも多数受講いただきました。
- ・那覇市・豊見城市に加え糸満市とも連携し子供の貧困対策支援員を対象としたSW研修を10回開催することができました。

重点課題2. 沖大の教育・研究 ～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

<経法商学部経法商学科>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度はハイブリッド形式での開催となっていたゼミナール大会について、対面方式で開催することができました。
- ・入学前課題については、入学前オリエンテーションで方法等の解説し、課題に取り組んでもらいました。さらに、ポータルサイトも作成し、欠席した学生でも入学前課題に取り組めるような環境を整備しました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・語学学習を促進するための、国コム学会の奨励金および検定料補助金支給を大幅に拡充させることができました。
- ・3年ぶりに海外フィールドスタディを実施し、学生の成長に繋げることができました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・実習を行う学生の対人関係のスキル、専門的知識の個人差を鑑み、実習指導担当教員、専門科目担当教員の連携を進めると同時に、実習先指導者との連携を強めるため、zoomを用いて、実習担当者会議を年2回実施しました。実習先と事前に学生の情報の共有を行い、実習巡回時にも学生の指導について話し合いを行ったことにより、実習を深めることにつながったため、実習先指導者からも評価をいただくことができました。

<人文学部福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻>

- ・4年次の7名を対象に、エビデンスをもとにしたD.Pの振り返り、学修成果の検証を行いました。

<人文学部こども文化学科>

- ・教員採用試験対策については、学科と教職支援センターとが協働しつつ、着実な実績を積み重ねることができました。(採用試験合格者数合計 49 名：現役 16 名、過卒 33 名)。
- ・卒業論文・卒業研究を通して、全員がこども文化学科での学習成果をそれぞれの形でまとめることができました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・1 年次ではラインズドリルを活用した入学前課題を継続実施しました。また、2 年次の学習成果測定において、国試過去問を利用した基礎学力試験や DP ルーブリックを用いた自己評価を実施し、現時点での課題が分かり、今後の具体的な取組みを検討することができました。4 年次についても卒業研究に関するルーブリックを用いて、学生自身と教員が学習成果を評価することができました。
- ・4 年次を中心に国家試験対策模擬試験（業者模試）を 3 回実施し、本学科学生の国家試験対策の支援を行いました。模擬試験の結果を基にして低得点者への重点的な支援策を講じました。
- ・国家試験対策室を設置し、学生が一人あるいは複数で国試対策ができる環境の整備を進め、直前には 4 号館（健康栄養学部棟）4 階の 2 教室を国家試験対策のために学生が利用できるようにしました。直前の「合格宣言の集い」を実施し、試験当日の心得や準備する事等の情報を提供し、モチベーションアップを図りました。

<大学院>

- ・年 2 回(6 月・10 月)の中間発表会と最終発表会を開催し、院生それぞれが研究の進捗の目安にできるようにしました。学外の研究者からも有益なコメントが寄せられ、学び合いの機会となりました。

<教務課>

- ・学生 FD 委員とのランチミーティングを実施し、その中で、オンライン授業の利点や改善点などについて、意見交換を行いました。
- ・教務委員会（2023/1/27）や共通科目運営委員会（2023/1/17）において各学科長、部会長、研究科長にシラバスチェックを依頼し、実施しました。
- ・授業アンケートのさらなる改善にむけ、manaba を使用し WEB でアンケートを実施しました。

<国際交流室>

- ・2022 年 10 月に、協定の締結調整に向けて、崔副学長、嘉数教務部長、朴准教授、名幸の 4 名で、ヨンイン大学を訪問し、2023 年度に沖縄大学で協定式を行うことを確認しました。
- ・2022 年 6 月に、留学生交流会を実施しました。沖縄の伝統工芸品の琉球ガラスクラフト体験（文化体験）等を通じて、留学生同士の情報交換の場、親交を深める機会となりました。

<マルチメディア教育研究センター>

- ・アネックス共創館の無線 LAN リプレイスを行いました。機器交換により、ユーザーの接続状況も改善され、利用状況の可視化も簡単に行えることから、今後、管理者の負荷軽減も見込まれます。

<教職支援センター>

- ・こども文化学科と連携し、教員採用試験担当教員と3年次後期から4年次前期まで対策講座を実施し、現役生13名、過卒生32名が合格しました。教員採用二次試験が9月に実施されることとなり、例年より長期間での対策講座となりましたが担当教員と学科と連携し対応しました。

重点課題3. 沖大の学生像 ～共創力を育む大学教育への変革～

<経法商学部経法商学科>

- ・多様なインターンシップの機会や成果の情報について、キャリア関連科目の状況を含め、学科での共有を促進しました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・Zoomやビデオチャットなどのツールを活用することで、柔軟かつ機動的に、多くの学生の支援を行うことができました。
- ・海外派遣留学の募集を3年ぶりに再開し、10名の学生が留学しました。天久ゼミでは、カナダに長期留学しているゼミ生との交流（Zoomにて）を行いました。

<人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻>

- ・プチ研究、卒業論文それぞれで、ループリックを活用した自己評価を行い到達度を検証しました。

<人文学部こども文化学科>

- ・「学校ごっこ（実施1年）（運営2年宮島ゼミ）」「沖大附属小中学校（実施2、3年）（運営同実行委員会）」については、例年通り学生が積極的に取り組み、その成果の報告書にまとめました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・那覇市福祉協議会と連携して子ども食堂で活用できるレシピ（国場555レシピ）を開発し、小学校高学年を主体とした調理実習も実施しました。各子ども食堂や家庭ではこのレシピを活用してバランスの良い食事を子どもと保護者が調理できるようにする取り組みを行いました。

<学生支援課>

- ・コロナの影響により新歓スポーツ大会や卒業パーティーなどが中止となりましたが、沖大祭を対面と一部リモートによる方法で開催しました。また、チャレンジ沖大生では3件を採用し、支援を行いました。
- ・コロナによる活動制限のある中、許可制によりサークル・クラブ活動を認め、支援を行いました。

<図書館>

- ・レポート作成の質を高めるために、26件の図書館ツアーを実施し、図書館と連携した検索・情報収集法指導を行い、講義と連動した「読み方・書き方」の指導を行いました。

重点課題4. 沖大の新たな共創への挑戦

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・言語の障害による学習格差是正のため、那覇市社会福祉協議会の要請を受けて、日本語教員

養成コースの2名が曙小学校において日本語通訳ボランティアを行いました。

- ・教職課程履修学生の模擬授業を卒業生が観察し、指導・助言を与える機会をつくることができました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・沖縄県栄養士会の配慮により、学生が無料で研修会に参加する機会が設けられました。また、1期生の卒業にあたり、今後の生涯学習継続のために、沖縄県や全国栄養士会の情報をもらい、協力して活動していくことになりました。

<経営企画室>

- ・2021年度にいただいた外部評価委員会からの提言について、執行部で対応内容・部署を確認し、2022年度外部評価委員会に対応状況を報告しました。

<学生支援課>

- ・沖大祭、チャレンジ沖大生では、コロナの状況下でリモートやコロナ対策により許可できる範囲で地域参加、連係を意識した取り組みを実施しました。

基本課題A「志願者」志願者を十分に獲得し、APに基づく選抜を実現

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでオープンキャンパスを実施するなど、入試広報室と各学科が連携して本学の特色を伝える広報活動を展開しました。2022年度の入学者数は639名となり、入学定員を充足することができました。

(入試広報の取組み)

- ・若い世代で有名なアニメ声優を起用したCMを作成し、SNSと連動させ展開しました。
- ・県外の進学ガイダンス等に参加し、県外受験生と直接接触する機会を増やしました。
- ・8月に石垣島出張オープンキャンパスを実施しました。島出身学生の協力を得て好評のうちに実施できました。
- ・志願者管理システムを導入して資料請求やガイダンス等での第一次接触者から志願、入学までを一括管理し、データ収集蓄積を徹底しました。

基本課題B「中退者」中退者を出さない教育と学生支援

<経法商学部 経法商学科>

- ・ゼミの出席状況が芳しくない学生などをゼミ担当教員に呼び掛けてリスト化し、学習支援室につなげました。
- ・新学期開始の前に、GPA1.5以下の学生にアナウンスして個別の履修相談を行いました。新学期の最初に躓いてしまう学生についてサポートすることができました。
- ・問題発見演習Ⅰでも、登録漏れなどがないか、各担当教員が確認を行いました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・出席状況に問題があるなど、気になる学生について学科会で情報を交換し、全員で共有すると同時に、履修相談室と綿密な連携の下、継続して実施しました。

<人文学部 こども文化学科>

- ・定例の学科会議（通算19回実施）では、学年ごと、ゼミごとに、気になる学生の情報を共有しました。

- ・宿泊オリエンテーションの代替案作りには、学生が大きな力を発揮しました。中止や変更を強いられる中で、学内で小さなイベントを開催するなど工夫し、充実した内容で実施することが出来ました。

- ・コロナ禍で、学業面・人間関係面でも特に課題をも抱えがちな編入学生について、履修指導や人間関係形成における支援等を行いました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・中退の恐れのある学生に対して、その要因等について聴き、学生に寄り添った対応を行いました。履修相談室や学生生活支援室、保健室と連携を図り、学習支援と精神・心理的に不安を抱える学生への支援等を行いました。

<大学院 現代沖縄研究科>

- ・ミスマッチを避けるため、エントリー面接を丁寧に行い、本試験に向けて、個別の受験生や研究テーマに寄り添った助言を行いました。外国籍受験希望者の日本語能力についても丁寧に確認を行い、助言を行いました。

- ・基礎研究科目の「アカデミック・ライティング」や「質的研究法入門」の新設により、社会人入学者がスムーズに研究の基礎などを学べるよう工夫しました。

- ・大学院生の個別相談などを丁寧に行ったり、修論発表会等の教育的機会の意味を研究科で共有することで、院生が安心・安全な環境で学び、研究することのできる環境を確保しました。

- ・学生支援課、入試広報室、保健室、教務課などの担当窓口との連携と密に行うとともに、情報共有を可能な限り行いました。

<経理課>

- ・学期末の学費未納者については、経理課の学費担当者が振り込みを確認し、学生支援課の担当者と逐一情報共有を行いました。

<教務課>

- ・学修支援室において初年次学生への個別の履修指導を進めました。

<学生支援課>

- ・JASSO 奨学金と修学支援制度の担当者を 2 名配置して業務遂行にあたりました。学内奨学金の見直しと規程改正を行いました。

- ・メールや電話による学生からの意見や苦情について、関係部署と連携して対応を行いました。

基本課題C「社会接続」社会と納得できるつながりを創り卒業

<経法商学科学部 経法商学科>

- ・キャリアデザイン入門などの科目を通して働くことについて考えてもらう機会を提供しました。

- ・公務員対策講座について、オンライン講義も受講できる体制で学習をサポートしました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・5名の教育実習希望者が無事、模擬授業に合格し、来年度の教育実習に臨むことになりました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験対策委員会が企画し、受験生・卒業生・同窓会と連携し、国家試験激励会を開催しました。卒業生と受験生がオンラインでつどい、試験対策についての情報交換を行いました。

＜人文学部福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻＞

- ・卒業生や在学学生を対象に 1～2 か月に 1 回のペースでキャリアアップにつながる自主研修会を実施しました。

＜人文学部こども文化学科＞

- ・「教員養成の沖大」ブランドの確立に向け、教員採用試験対策について、一次対策は年間を通じて毎週 1 回、二次対策は直前 1 か月前以降、過卒者も対象に毎日実施しました。
- ・学科に集まる卒業生教員の情報を整理、共有しました。教育現場で生じるさまざまな実践的な課題や成果を、集約し整理し、その取り組みから見えたものは学科紀要でも発表されました。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞

- ・問題発見演習の合同ゼミにて 2 回にわたり「管理栄養士・栄養士の職域紹介」を実施しました。また同ゼミにおいて自らのライフデザインについての発表を行い、管理栄養士となるための動機付けの強化がなされました。

＜大学院 現代沖縄研究科＞

- ・島しょ県としての課題や強みを生かした研究活動などがさらに推進できるよう、院生だけでなく、地域研究所特別研究員への紹介など、修了者へのための研究支援体制の強化を検討しました。

＜就職支援課＞

- ・沖縄県中小企業家同友会との連携（交流会、合同企業説明会など実施）、企業訪問、企業人事担当者と学生の交流会などを実施しました。

基本課題D「大学運営・経営基盤」激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化

【大学運営・経営基盤】

＜総務課＞

- ・教職合同ハラスメント防止研修会として、琉球大学ハラスメント相談支援センターの矢野恵美教授を講師に「ハラスメントのないキャンパスにするには～学生に対しての接し方、信頼関係を築くためにはどのようなことに気を付けなければいけないのか～」をテーマに、ハイブリッド型（ライブ+オンデマンド配信）で開催、教員 55 名、事務職員 46 名計 101 名が参加しました。
- ・「沖縄大学規則等制定改廃要領」を策定し、7 月から月 1 回（原則第 3 木曜日）SD 研修会「規程勉強会」を開催しました。行政法が専門の朝崎氏（法務監査室）を講師に、学内規程を制定、改正する際の注意点や法令について理解を深める勉強会を行いました。次年度も引き続き開催する予定です。
- ・12 月に「沖縄大学事務職員人事評価」を実施しました。自己点検による業務の振り返り、所属長との面談を行うことで、自身だけでなく部署の課題を話し合う場となりました。コ

コロナ禍で各自が様々な不安を抱える中、対面で話し合うことの重要性を再認識しました。

<経理課>

- ・課長会と事務局会議で、予算執行状況の報告を行いました。経理課以外の職員についても、資金の流れに触れる機会になりました。
- ・教員の研究費等の振り込み対応について、研究費担当部署の意向を確認し、検討を進めました。
- ・有価証券の評価替えに関する規程の改正を行い、業務改善を進めました。
- ・教育無償化への対応として、新しい学費システムによる学費パターンを遅滞なく作成し、納付書の作成・納付が速やかに行えるようにしました。

<経営企画室>

- ・自己点検・評価活動における、1次（課室長レベル）と2次（部局館長レベル）の連携については、以前よりスムーズに対応できるようになってきた。3次（執行部レベル）の指示については、2022年6月の委員会で学長より報告・指示があったが、実施状況の確認・フォローが課題である。

【その他取り組み】

<施設課>

- ・中規模教室の不足感への対応として1号館5Fの整備（サークル室フロアから教室を2室とトイレを設置する改装）を行いました。また、壁や塗装が古くなっていた1号館601教室の前面廊下の修繕とベンチ塗装の塗り直し、及びトイレの一部便器の取り換えを行うなど、修繕とリフォームを実施しました。
- ・「正門横バイク置場隣接地を取得し、2023年度完成に向け、整備工事を進めました。
- ・4号館と2号館を結ぶ渡り廊下の着工に向け、関係機関との調整作業を進めました。
- ・施設劣化調査計画に基づき、1号館、2号館及び国場キャンパス敷地の劣化調査と安全点検を実施しました。
- ・2号館空調機の更新を実施しました。

<経営企画室>

- ・8月の教職合同研修会で、岡山理科大の秦副学長の講演会を開催しました。先進的な事例として、今後本学の取り組みの参考としていきたいと考えています。
- ・教務課のサポートにより、学生の学修行動に関するアンケートを実施しました。収集したデータをどのように活用していくか、回答率をどうやって上げるかが課題となっています。

2. 地域貢献事業

(1) 公開講座の実施

1976 年に開講した土曜教養講座は、2022 年度で 47 年目を迎えました。

本講座は、沖縄大学地域研究所所員はじめ特別研究員や地域諸団体との共同研究の成果を地域に発表する場として長年実施してきました。また、時宜に適ったテーマでシンポジウムや講演会を企画し、地域における教養講座の役割も果たしてきました。

2022 年度も、地域研究所共同研究班の研究成果や学科の特色を活かした講座を中心に、包括連携協力協定を締結している諸団体等との共同企画も含め多様な公開講座を実施しました。

土曜教養講座（15 回開催）

	開催日	内容	申込	参加
1	4 月 16 日 (土)	【オンライン】第 583 回土曜教養講座 「NP0 のもつ社会的活用可能性と今後の課題」 【司会】春田吉備彦（沖縄大学経法商学部教授） 【講師】滝原啓允（労働政策研究・研修機構研究員 川津知大（のぞみ法律事務所弁護士） 渋谷典子（特定非営利活動法人参画プラネット代表理事、 愛知大学・中京大学・日本福祉大学非常勤講師）	29 名	28 名
2	6 月 18 日 (土)	【オンライン】第 584 回土曜教養講座 「沖縄を舞台にした国際私法上の交錯を解き明かす」 【司会】谷口 友一（沖縄大学経法商学科講師） 【講師】春田 吉備彦（沖縄大学経法商学科教授） 井川 志郎（山口大学准教授） 金 美和（青森中央学院大学教授）	14 名	11 名
3	7 月 16 日 (土)	【オンライン】第 585 回土曜教養講座 「女たちの『復帰』50 年企画① 沖縄の女性の人権」 【司会】宮城公子（沖縄大学国際コミュニケーション学科教授） 【講師】高良沙哉（沖縄大学福祉文化学科教授） 高里鈴代（元那覇市議会議員）	86 名	58 名
4	7 月 30 日 (土)	【オンライン】第 586 回土曜教養講座 「子どもの貧困問題と母子世帯の居住貧困を考える」 【司会】島村聡（沖縄大学福祉文化学科教授） 【講師】黒田華（琉球新報広告事業局 OKINAWA SDGs プロジェクト事務局） 葛西リサ（追手門学院大学准教授） 山野良一（沖縄大学福祉文化学科教授）	110 名	80 名
5	9 月 24 日 (土)	【オンライン】第 587 回土曜教養講座 「女たちの『復帰』50 年② 沖縄政治・社会と女性たち」 【司会】高良 沙哉（沖縄大学 福祉文化学科 教授） 【講師】比嘉 京子（沖縄県議会議員） 謝花 直美（沖縄タイムス 記者/ 沖縄大学地域研究所 特別研究員）	109 名	70 名
6	10 月 1 日 (土)	【オンライン】第 588 回土曜教養講座 「『沖縄子ども白書』にみる希望と宣言」 【司会】島村 聡（沖縄大学 福祉文化学科 教授） 【講師】山城 康代（一般社団法人りあん 代表理事） 北上田 源（琉球大学 教育学部 准教授）	84 名	69 名

7	10月8日 (土)	【オンライン】第589回土曜教養講座 「米軍人の公務外不法行為とSACO見舞金不支給事件」 【司会】 春田 吉備彦 (沖縄大学 経法商学科 教授) 【講師】 日高 洋一郎 (コザ法律事務所 弁護士) 三谷 晋 (岐阜大学 地域科学部 准教授)	17名	16名
8	10月22日 (土)	【オンライン】第590回土曜教養講座 「沖縄で文学することー沖縄文学の過去・現在・未来ー」 【司会】 浜川 智久仁 (沖縄大学 図書館 職員) 【講師】 大城 貞俊 (作家・元琉球大学教授) 當山 陽子 (小説) トーマ・ヒロコ (詩) 屋良 健一郎 (短歌) 安里 琉太 (俳句)	55名	47名
9	11月5日 (土)	【オンライン】第591回土曜教養講座 「ミャンマーって国をご存じですか？」 【司会】 山代 寛 (沖縄大学 学長／健康栄養学部教授) 【講師】 松本 敏秀 (歯科医師) トゥー・ヤ・ソー (在沖縄ミャンマー人会事務局長)	41名	30名
10	11月12日 (土)	【オンライン】第592回土曜教養講座 「生活・人生の『語り』を紡ぐ『聞き書き』のもつ可能性を探る」 【司会】 玉木 千賀子 (沖縄大学 福祉文化学科 教授) 【講師】 小田 豊二 (聞き書き作家) 酒井 成美 (ひまわり医療生協ひまわり聞き書き隊)	97名	78名
11	12月3日 (土)	【対面】第593回土曜教養講座 「アイヌ芸術家の語る先住民族の想いーアイヌモシリと核のごみ問題よりー」 【司会】 宮城 公子 (沖縄大学 人文学部 教授) 【講師】 吉井 美知子 (沖縄大学 人文学部 教授) 藤戸 康平 (アイヌ彫刻家) 山本 栄子 (歌手) 床 みどり (歌手)	103名	82名
12	2023年 2月18日 (土)	【オンライン】第594回土曜教養講座 「ケアリング・コミュニティの再発見ー足元にある“支え合い”の芽ー」 【司会】 上地 武昭 (沖縄大学名誉教授) 【講師】 越智 和子 (香川県琴平町社会福祉協議会) 仲嶺 茜 (浦添市社会福祉協議会) 玉城 十七美 (西原町社会福祉協議会) 玉木 千賀子 (沖縄大学福祉文化学科教授) 屋嘉比 和枝 (地域研究所特別研究員) ※フロア討論のみ参加	90名	60名
13	2月25日 (土)	【オンライン】第595回土曜教養講座 「部活動の地域移行を考える」 【司会】 嘉数 健悟 (沖縄大学福祉文化学科教授) 【講師】 石塚 大輔 (スポーツデータバンク沖縄㈱) 上地 幸市 (沖縄大学客員教授) 中山 健二郎 (沖縄大学福祉文化学科准教授)	52名	38名
14		【対面】第596回土曜教養講座	59名	46名

	3月4日 (土)	「沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科宮城公子教授 最終講義：ジェンダー、異文化、そして平和を考えるーこれまで とこれからー」 【司会】 伊藤丈志（沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科准教授） 【講師】 宮城公子（沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科教授）		
15	3月18日 (土)	【オンライン】第597回土曜教養講座 「子どもの権利を守る： 子どもたちの抱える課題をスクールソーシャルワークの視点で考 える」 【司会】 名城 健二（沖縄大学福祉文化学科教授／ 沖縄大学大学院現代沖縄研究科科长） 【講師】 松田 孝（那覇市立寄宮中学校校長） 知念 恵美子（那覇市教育委員会子ども寄添主任支援員 ・スクールソーシャルワーカー／沖縄大学大学院修了 生）	88名	64名

まーいまい Naha・沖縄大学連携講座（3回開催）

	開催日	テーマ	申込	参加
1	11月30日 (水)	【対面】国際コミュニケーションってなんだろう？ 【講師】 伊藤 丈志（国際コミュニケーション学科 准教授）	7名	4名
2	12月15日 (木)	【対面】語学力を活かした職業 【講師】 伊藤 丈志（国際コミュニケーション学科 准教授）	24名	19名
3	2月8日 (水)	【対面】生活習慣のモニタリングから始める「健康づくり」 【講師】 嘉数 健吾（人文学部 福祉文化学科 教授）	8名	7名

●「地域研究」「地域教育」「地域連携・貢献」による大学の特色化

本学は「沖縄型福祉社会の共創－ユイマールを社会的包摂へ－」（私立大学研究ブランディング事業〈2016-2018〉）のテーマで特色化を進めてきました。同事業を経て、沖縄の子どもの貧困問題の解決に向けた取組みを展開しています。

沖縄の子どもの貧困問題に関わる研究

	分野	事業種	内容	主担当
1	地域研究	全学研究プロジェクト	地域の健康・栄養課題改善における実践、支援法のスキルの検討ーライフステージにおける子どもの相対的貧困と食環境・食生活・社会環境との関連に関する研究：（2） 幼児期	逸見幾代 （健康栄養学部教授）
2	地域研究	共同研究	子どもの食自立支援に関する研究 子ども食堂における調理実習共同開催と沖大食育レシピの有効性検証	逸見幾代 （健康栄養学部教授）
3	地域研究	科学研究費助成研究	基礎自治体における子どもの貧困対策の現状と課題に関する総合的研究	山野良二 （人文学部教授）
4	地域研究	科学研究費助成研究	子どもの貧困と地域特性の関連の研究	【研究分担者】 山野良二 （人文学部教授）

沖縄の子どもの貧困問題に関わる教育

	分野	事業種	内容	主担当
1	地域教育	土曜教養講座	子どもの貧困問題と母子世帯の居住貧困を考える	島村聡（人文学部教授）
2	地域教育	土曜教養講座	『沖縄子ども白書』にみる希望と宣言	島村聡（人文学部教授）
3	地域教育	土曜教養講座	子どもの権利を守る：子どもたちの抱える課題をスクールソーシャルワークの視点で考える	名城健二（人文学部教授）

沖縄の子どもの貧困問題に関わる地域連携

	分野	事業種	内容	主担当
1	地域連携	委託事業	子どもの貧困ソーシャルワーク研修（那覇市、豊見城市、糸満市）	島村聡（人文学部教授）
2	地域連携	委託事業	沖縄県ヤングケアラー関係機関職員研修事業	名城健二（人文学部教授）

（３）「出前講座・体験授業」の実施

沖縄大学では、地域貢献の一環として多様な学習機会の一助となるよう、小学校・中学校・高校への「出前講座・体験授業」の実施をしています。

「出前講座・出前授業」（小学生・中学生・高校生向け講座） 開催講座数：33 講座

	開催日	実施高校	講座名	担当講師
1	4月26日	青森県立大間高等学校	語学力を活かした職業（英語キャリア）	伊藤 丈志
2	5月17日	首里東高校	目標を達成するには、コツがある！	石原 端子
3	5月17日	高嶺中学校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城 健二
4	5月18日	陽明高校	会社という仕組み	谷口 友一
5	6月10日	具志川高校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城 健二
6	6月22日	泊高校夜間部	「平和」を考える	宮城 能彦
7	6月24日	陽明高校	目標を達成するには、コツがある！	石原 端子
8	7月8日	沖縄市立島袋小学校	知ってびっくりタバコの真実	山代 寛
9	7月12日	高嶺中学校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城 健二
10	7月22日	宜野座高校	どうして勉強しなくてはいけないの	宮城 能彦
11	7月25日	真和志高校	ベトナムのストリートチルドレン—どんな子どもたち？—	吉井 美知子
12	7月29日	首里東高校	目標を達成するには、コツがある！	石原 端子
13	8月1日	真和志高校	困っている人を支える専門職を知ろう	平野 貴大

14	8月22日	首里東高校	目標を達成するには、コツがある！	石原 端子
15	9月13日	中部農林高校	働くという事	春田 吉備彦
16	9月20日	中部農林高校	ブラックバイトと高校生・大学生	春田 吉備彦
17	9月20日	具志川商業高校	お互いの「強み」を伝えあってみよう	吉川麻衣子
18	9月20日	那覇工業高校 定時制課程	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城 健二
19	10月18日	中部農林高校	障がい者スポーツの世界	中山 健二郎
20	11月1日	中部農林高校	身近な情報モラル	金城 秀樹
21	11月2日	豊見城高校	2045年の私たちの働き方とAI（人工知能）	春田 吉備彦
22	11月7日	中部農林高校	ベトナムのストリートチルドレンーどんな子どもたち？ー	吉井 美知子
23	11月16日	北中城高校	18歳で成人！どうなるの！？	岩垣 真人
24	11月22日	つくば開成国際高等学校	英語のTV コマーシャルから異文化社会を考える	伊藤 丈志
25	12月7日	久米島高校	何のために働くの？	宮城 能彦
26	12月9日	糸満市立西崎小学校	生活習慣全般	山代 寛
27	12月15日	宮古高校	何のために働くの？	宮城 能彦
28	12月15日	宮古高校	1人の命を犠牲にして5人の命を助けていい？！	富山 侑美
29	12月19日	首里東高校	2045年の私たちの働き方とAI（人工知能）	春田 吉備彦
30	12月21日	久米島高校	働くということ	春田 吉備彦
31	12月21日	泊高校夜間部	何のために働くの？	宮城 能彦
32	12月21日	那覇商業高校	「日本的」な働き方・働かせ方って？	石川 公彦
33	2月7日	石垣市立明石小学校	VRから学ぶ中国語超入門	渡邊 ゆきこ

（４）地域住民への図書の貸し出し

地域住民が利用する公共図書館に目的の資料がなく、その資料が沖縄大学図書館にある場合、公共図書館を通じて地域住民への資料の貸し出しを行っています。

2022 年実績

	依頼日	依頼館
1	4月28日	宜野湾市立図書館
2	6月14日	沖縄県立図書館
3	8月26日	浦添市立図書館
4	9月13日	沖縄県立図書館

5	9月13日	沖縄県立図書館
6	11月2日	沖縄県立図書館
7	11月30日	沖縄県立図書館
8	12月1日	沖縄県立図書館
9	3月7日	沖縄県立図書館
10	3月13日	宜野湾市立図書館
11	3月28日	浦添市立図書館

(5) 講師の派遣

沖縄大学では、教員を自治体等へ委嘱委員、講師として派遣しています。政策形成への寄与、知の還元等により地域社会への貢献を行っています。

2022年度 学外委員・講師等の派遣数

学科	教員数	派遣教員数	短期派遣	中・長期派遣	合計
経法商学科	25	10	3	15	18
国際コミュニケーション学科	12	6	5	2	7
福祉文化学科	16	7	43	12	55
こども文化学科	9	4	7	4	11
管理栄養学科（助手含）	17	8	11	9	20
その他（事務局参与等）		7	5	3	8
合計	79	42	74	45	119

(6) 那覇市議会報告会の開催

2017年度から毎年度開催してきた那覇市議会報告会および市民との意見交換会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、しばらくの間、実施を見送ってきましたが、11月15日（火）に開催し、約20名の参加がありました。議員のかたがたが直接、市内各地（4会場）に出向き開催している同報告会について、学生や教職員、近隣市民に議会や市政に対する関心を喚起していく趣旨に沿い、今後とも那覇市議会議員と意見交換ができる場を提供できるよう取り組みます。

(7) 期日前投票（中止）

選挙の期日前投票会場を学内に設置（本館多目的教室）してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学内実施はありませんでした。学生、教職員や近隣住民のかたがたの投票を促すだけでなく、学生が選挙スタッフとして関わることで主権者教育の一環となってきたため、今後とも期日前投票会場が学内に設置できるよう努めてまいります。

3. 学生活動の実績

(1) クラブ活動・ゼミ活動等の実績

競技名・団体名	日付	大会
野球部	4月2日～ 4月30日	第107回九州地区大学野球選手権 南部九州ブロック大会 沖縄地区予選 優勝 殊勲賞：岡田尚真、打点賞：仲宗根滉大、打撃賞1位：神里航平、打撃賞2位：石原結光、最多盗塁賞：神里航平、新人賞：知念新、ベストナイン賞：(投手)平典士、(捕手)石原結光、(一塁手)仲宗根滉大、(二塁手)友寄力斗、(外野手)神里航平、(外野手)宜保龍空
	5月16日～ 20日	第107回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会決勝トーナメント 3位
	5月28日～ 7月2日	第24回沖縄県大学野球フレッシュリーグ 準優勝
	8月12日～ 14日	「九州地区大学野球連盟創立70周年記念」交流試合（福岡ソフトバンクホークス2軍戦） 選手派遣 仲地礼亜、神里航平
	8月22日～ 23日	「九州地区大学野球連盟創立70周年記念」交流試合（北部選抜 VS 南部選抜） 選手派遣 石原結光、平典士
	8月6日～ 23日	第108回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会沖縄地区予選 優勝 殊勲賞：石原結光、最多勝利投手賞：平典士、打撃賞：知念新、打点賞：宜保龍空、最多盗塁賞：仲宗根滉大、ベストナイン賞：平典士（投手）、仲宗根滉大（一塁手）、友寄力斗（二塁手）、知念新（遊撃手）、神里志温（外野手）、新人賞：富山優日
	10月4日～ 8日	第108回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会決勝トーナメント 優勝 最優秀選手賞：平典士
空手道部	4月29日	2021年度沖縄県学生空手道選手権大会 〈男子〉個人形優勝：眞喜志勇哉、準優勝：川村真太郎、個人組手3位：與那覇大武 〈女子〉団体形準優勝（本村優利花、下門未幸、新屋乙葉）、個人組手3位：本村優利花
	4月30日	第46回沖縄県学生空手道選手権大会 男子個人形優勝：眞喜志勇哉、男子個人形準優勝：川村真太郎、女子個人形3位：仲本青空、男子個人組手3位：與那覇大武、男子団体形優勝：沖縄大学Aチーム（眞喜志勇哉、川村真太郎、平安名翔太）、男子団体形準優勝：沖縄大学Bチーム（本村進之輔、伊保克矩、仲間大貴）、女子団体形準優勝：沖縄大学Aチーム（新屋乙葉、仲本青空、大城理沙）
	5月15日	第63回全九州学生空手道選手権大会 男子個人形3位：眞喜志勇哉
	10月15日～ 17日	第71回全九州大学空手道選手権大会 男子団体形優勝、女子団体形準優勝
サッカー部	8月24日～ 9月16日	OFA第20回沖縄県学生サッカーリーグ 3位
	11月19日	2022年度 KYFA 第37回九州大学サッカーリーグ 5位
水球部	7月16日	第98回日本学生選手権水泳競技大会水球競技 九州地区予選会 優勝
	8月30日～ 9月1日	第98回日本学生選手権水泳競技大会水球競技 出場
女子サッカー部	4月3日～ 4日	kBC学園杯争奪 OFA 第31回沖縄県女子サッカー選手権大会 出場
	10月29日～ 31日	2022年度 KYFA 第31回九州大学女子サッカー選手権大会 九州ベスト8

	11月19日～20日	OFA第33回沖縄県女子サッカー冬季大会 5位
陸上競技部	4月30日	第73回沖縄陸上競技選手権大会 男子800m3位：安里良也、男子800m7位：神谷秋寿、男子1500m3位：安里良也、男子4×100mR4位、男子4×400mR1位、男子ハンマー投2位：仲田一星、男子ハンマー投げ3位：大野銀太、女子100m4位：阿波根朱里、女子800m3位：黒澤秀香、女子1500m8位：黒澤秀香、女子100mH1位：阿波根朱里、女子4×100mR5位、女子棒高跳1位：名嘉真メグ、女子走幅跳8位：大城咲羅
	5月20日～22日	第92回九州学生陸上競技対校選手権大会 男子5000m7位：安里良也、男子4×100mR6位、男子4×400mR6位、男子ハンマー投8位：仲田一星、女子100m6位：阿波根朱里、女子100mH4位：阿波根朱里、女子4×100mR4位、女子棒高跳6位：名嘉真メグ
	8月6日	第8回WTTK・田園クラブ中距離記録挑戦会 男子1500m3位：安里良也
	8月19日～21日	第77回九州陸上競技選手権大会 男子4×100mR予選3位、男子4×400mR予選2位、女子800m予選7位：黒澤秀香、女子100mH決勝2位：阿波根朱里
	9月9日～11日	第91回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子1500m 出場：安里良也
	9月23日～25日	第50回九州学生陸上競技選手権大会 女子100m1位：阿波根朱里、女子棒高跳5位：名嘉真メグ
	10月15日～16日	第7回九州学生陸上競技新人選手権大会 男子100m8位：赤嶺翔、女子走幅跳7位：石原麻理奈
男子バレーボール部	5月8日	沖縄県大学バレーボール春季大会 4位
	5月19日～22日	令和4年度九州大学春季バレーボール男子リーグ 3部2位
女子バレーボール部	5月8日	沖縄県大学バレーボール春季大会 3位
	10月2日	令和4年度沖縄県大学バレーボール秋季大会 準優勝
軟式野球部	10月5日～7日	2022年度沖縄県秋季リーグ戦 優勝 最優秀選手：新垣敦生
	11月13日～15日	第45回全日本大学軟式野球選手権 出場
仲地礼亜	10月20日	2022年 プロ野球ドラフト会議 中日ドラゴンズ1位指名：仲地礼亜
ETロボコン (チームオキダイ)	9月24日	ETロボコン2022 沖縄地区大会 プライマリークラス 総合優勝
	11月17日～18日	ETロボコン2022 チャンピオンシップ大会 出場
みんなでくわっちーさびらプロジェクト	2月18日	チャレンジ沖大生企画「みんなでくわっちーさびらプロジェクト」
サッカースクール	12月3日～2月26日	チャレンジ沖大生企画「サッカースクール」
学生団体み～ま～る	12月12日～16日	チャレンジ沖大生企画「Let me fly ～揚げよう結いの輪を～」 学生団体み～ま～る

(2) 学生の研究支援

長期ビジョン OKIDAI VISION 2028「地域がキャンパス 地域のキャンパス」の実践として、学生のフィールドワークを奨励する「琉球弧研究支援」プログラムを実施しています。

学生は、企画書や報告書をまとめる中で地域について理解を深め、研究成果発表会を通し地域の役に立つ人材像を考えていきます。地域の方々と関わり合いながら、自ら学び考えることのできる地域教育を目指しています。

琉球弧研究支援プロジェクト

【個人の部】

	学科/学年	研究・実践テーマ
1	国際コミュニケーション/3 年次	沖縄の学力が低い原因の追求と課題解決
2	管理栄養/4 年次	沖縄県学童の食嗜好と噛む力の関連
3	管理栄養/4 年次	沖縄県小学生を対象とした学校給食の食べ残しの要因に関する研究
4	こども文化/4 年次	遊ぶ活動を通しての人物画の変化 ―グッドイナフ人物画知能検査を用いて―
5	こども文化/4 年次	遊ぶ活動による聴く力の変化 ―ワーキングメモリに着目して―

【グループの部】

	学科/学年(人数)	研究・実践テーマ
1	経法商/2 年次(2 名)	琉球藍染衣装の魅力
2	福祉文化/3 年次(3 名)	琉球ユリでつなげる地域の輪
3	管理栄養/4 年次(2 名)	沖縄県の大学生を対象とした食品ロスに対する意識や態度の調査及び考案した食品ロス対策レシピの調理時間、廃棄率、おいしさの評価
4	こども文化/3 年次(4 名)	久米島における学童クラブの利用状況にみるその在り方について
5	こども文化/3 年次(4 名)	沖縄本島と久米島の学童支援員の困り感の違い

4. 学事報告

日付		学事報告
4 月	1 日	2022 年度沖縄大学・沖縄大学大学院入学式 ※午前・午後に分けて開催
	1 日	沖縄大学広報 157 号発行
	4 日～6 日	新入生オリエンテーション
	7 日	沖縄大学と社会福祉法人那覇市社会福祉協議会による包括連携協力に関する協定締結
	8 日	前期講義開始
	16 日	第 583 回土曜教養講座「NPO のもつ社会的活用可能性と今後の課題」
	27 日	地域研究所第一回総会
6 月	10 日	創立記念日
	18 日	第 584 回土曜教養講座「沖縄を舞台にした国際私法上の交錯を解き明かす」
	22 日	琉球弧研究支援プロジェクトキックオフミーティング（学生：個人 5 件、グループ 5 件）
	25 日	2022 年度沖縄大学後援会 総会
	25 日	大学院第 1 回学位論文等中間発表会
	28 日	全学研究プロジェクト推進委員会「地域共創形成プロジェクトー那覇市真和志南地区との『観光フットパス』共同作成を通じてー」「島ゴショウの 6 次産業化による地域づくりー香り高き『沖大ピィパーズ（仮称）』の商品開発を起点とするコレクティブ・インパクトを目指してー」の 2 件を採択
7 月	16 日	第 585 回土曜教養講座「わたちの『復帰』50 年企画① 沖縄の女性の人権」
	30 日	第 586 回土曜教養講座「子どもの貧困問題と母子世帯の居住貧困を考える」
8 月	1 日	沖縄大学広報 158 号発行
	6 日	福祉文化学科社会福祉専攻卒業論文中間発表会
	10 日	福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻卒業論文中間発表会
	17 日	冠奨学金授与式
	18 日	教職員合同研修会 ※オンライン開催
	—	—

9 月	1 日	久米島地区保護者懇談会
	7 日	宮古地区保護者懇談会
	8 日	八重山地区保護者懇談会
	13 日	北部地区保護者懇談会
	16 日	2022 年度 9 月 沖縄大学卒業式・沖縄大学大学院修了式
	17 日	中南部地区保護者懇談会
	24 日	第 587 回土曜教養講座「わたちの『復帰』50 年② 沖縄政治・社会と女性たち」
	24 日	後期講義開始
10 月	吉日	地域研究所紀要第 29 号発刊
	1 日	第 588 回土曜教協講座「『沖縄子ども白書』にみる希望と宣言」
	8 日	第 589 回土曜教養講座「米軍人の公務外不法行為と SACO 見舞金不支給事件」
	20 日	こども文化学科卒業論文中間発表
	21 日	教育実習報告会（初等）
	22 日	第 590 回土曜教養講座「沖縄で文学することー沖縄文学の過去・現在・未来ー」
	26 日	栄養教育実習報告会（栄養）
	26 日	地域研究所第 2 回総会
	30 日	第 63 回沖大祭（オンラインと対面によるハイブリット形式での開催） 「テーマ：ハイブリットでやるのか沖大祭！？～選択肢は 1 つより 2 つ～」
11 月	5 日	第 591 回土曜教養講座「ミャンマーって国をご存じですか？」
	11 日	教員採用試験合格者体験報告会
	12 日	第 592 回土曜教養講座「生活・人生の『語り』を紡ぐー『聞き書き』のもつ可能性を探るー」
	12 日	国際コミュニケーション学科卒業論文中間発表会
	18 日	1 号館 5 F 改装工事完了。供用開始
	30 日	まーいまーい Naha 連携公開講座①「国際コミュニケーションってなんだろう？」
12 月	2 日	教育実習報告会（中等）①
	2 日	外国語チャンプルーフェスタ

	3 日	第 593 回土曜教養講座「アイヌ芸術家の語る先住民族の想いーアイヌモシリと核のごみ問題よりー」
	8 日	国際コミュニケーション学科ゼミナール大会
	9 日	教育実習報告会（中等）②
	9 日	経法商学部ゼミナール大会
	10 日	こども文化学会
	15 日	まーいまーい Naha 連携公開講座②「語学力を活かした職業」
	24 日	福祉文化学科社会福祉専攻卒業論文最終発表会
2023 年		
1 月	1 日	沖縄大学広報 159 号発行
	19 日	福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻卒業論文最終発表会
2 月	3 日	国際コミュニケーション学科卒業論文最終発表会
	7 日	こども文化学科卒業論文最終発表会
	8 日	まーいまーい Naha 連携公開講座③「生活習慣のモニタリングから始める『健康づくり』」
	9 日	相談援助実習報告会
	11 日	大学院学位論文等最終発表会
	14 日	精神保健福祉援助演習・スクールソーシャルワーク実習報告会
	16 日	琉球弧研究支援プロジェクト報告会（学生：個人 5 件、グループ 5 件）
	18 日	第 594 回土曜教養講座「ケアリング・コミュニティの再発見ー足元にある“支え合い”の芽ー」
	25 日	第 595 回土曜教養講座「部活動の地域移行を考える」
3 月	2 日	外部評価委員会
	4 日	第 596 回土曜教養講座「宮城公子教授最終講義：ジェンダー、異文化、そして平和を考えるーこれまでとこれからー」
	10 日	2022 年度沖縄大学卒業式・沖縄大学大学院修了式
	18 日	第 597 回土曜教養講座「子どもの権利を守る：子どもたちの抱える課題をスクールソーシャルワークの視点で考える」
	22 日	地域研究所第 3 回総会

Ⅲ事業の概要（データ）

１．志願者数・合格者数・入学手続き数

学部

※編入除く（人）

学 科	志願者数	合格者数	入学手続き数
経法商学科	716	347	259
国際コミュニケーション学科	244	159	88
福祉文化学科	319	203	153
こども文化学科	213	102	56
管理栄養学科	212	98	84
合 計	1704	909	640

大学院

（人）

専 攻	志願者数	合格者数	入学手続き数
地域経営専攻	2	1	1
沖縄東アジア・地域研究専攻	1	1	1
合 計	3	2	2

２．入学金、授業料等の費用

（円）

学 科	初年次				2 年次	4 年次	4 年間
	入学金	授業料	その他	合計	3 年次		合計
経法商学科	125,000	720,000	118,300	963,300	835,000	855,000	3,488,300
国際コミュニケーション学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
福祉文化学科	125,000	720,000	116,300	961,300	833,000	853,000	3,480,300
こども文化学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
管理栄養学科	125,000	720,000	316,660	1,161,660	1,032,000	1,052,000	4,277,660

大学院

（円）

専 攻	初年次納入金	2 年次納入金	合計
地域経営専攻	601,750	500,000	1,101,750
沖縄・東アジア地域研究専攻			

3. 学内奨学金支給実績

	奨学金種別	年額	2021 年度		2022 年度	
			支給人数 (人)	支給総額 (円)	支給人数 (人)	支給総額 (円)
1	冠奨学金	授業料半額相当額	21	7,560,000	20	7,200,000
2	学業奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	50	9,270,000	36	8,300,000
3	スポーツ奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	24	5,150,000	18	5,830,000
4	文化活動奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	0	0	0	0
5	私費外国人留学生奨学金	授業料 60%相当額 授業料 50%相当額 授業料 40%相当額	3	420,000	5	864,000
6	後援会支援特別奨学金	上限 20 万円	17	2,960,000	15	2,700,000
7	後援会支援修学奨学金	上限 20 万円	13	2,500,000	32	6,400,000
8	学校推薦型選抜特別奨学生	授業料半額相当額	130	46,800,000	145	52,200,000
9	スポーツ支援特別奨学生	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額	25	8,460,000	29	8,820,000
10	児童福祉特別奨学生	授業料相当額	4	2,520,000	4	2,880,000
11	共通テスト利用選抜特別奨学生	授業料相当額 授業料 75%相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額	21	7,560,000	53	13,500,000
12	外国人特別奨学生	授業料半額相当額	12	4,320,000	9	3,240,000
13	二親等(兄弟等)以内同時在学 授業料減額制度	2 人目の授業料の 25%相当額	56	7,412,100	46	6,685,750

14	教育ローン等利子負担奨学金	上限 5 万円	3	68,927	4	76,444
15	社会人学生育児支援奨学金	1 人目は 5 万円 2 人目からは 3 万円	0	0	2	100,000
16	大学院研究奨励奨学金	授業料半額相当額	3	555,000	3	555,000
17	大学院現代沖縄研究奨励金	50 万～100 万	1	500,000	0	0
		合計	383	106,056,027	421	119,351,194

4. 単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況

単位互換協定校との学生の派遣・受入状況（2022 年度）

※期間は 1 年間、【 】は半年間。（派）は派遣協定のみ

提携大学（国内）	2022 年度	
	派遣	受入
【北海道】旭川大学	0	0
【北海道】札幌大学	0	0
【茨城県】茨城キリスト教大学	0	0
【埼玉県】東京国際大学	0	0
【東京都】津田塾大学	0	0
【東京都】法政大学	【1】	【2】
【東京都】和光大学	0	0
【神奈川県】関東学院大学	1【1】	3
【岐阜県】岐阜協立大学 （旧：岐阜経済大学）	0	0
【京都府】京都精華大学	0	【4】
【兵庫県】神戸親和女子大学	0	0
【広島県】広島修道大学	0	0
計	1【2】	3【6】

提携大学（海外）	2022 年度	
	派遣	受入
【韓国】聖公会大学	2	0
【韓国】延世大学韓国語学堂（派） ※2022 年度より	1	
【台湾】東海大学	1	0
【中国】西安交通大学（派）	0	
【中国】東華大学	0	0
【中国】上海体育学院	0	0
【アメリカ】エリツェットコミュニティカレッジ（派）	1	
【オーストラリア】ボンド大学（派）	0	
【オーストラリア】ニューイングランド大学（派）	0	
【ベトナム】ホーチン市師範大学	0	0
【カナダ】ヨーク大学（派） ※2018 年度より	2	
【カナダ】ジョージアンカレッジ（派）	3	
計	10	0

留学生の受入状況

国 別	学部生	院 生	研 究 生	国別計
中 国	11	0	1	12
台 湾	2	0	0	2
計	13	0	1	14

5. 主な資格取得状況

(人)

	現役	既卒	合計
教員採用試験合格者	13	32	45
社会福祉士国家試験合格者	14	13	37
精神保健福祉士国家試験合格者	11	5	16
管理栄養士国家試験合格者	56	—	56
マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 検 定試験合格者	49	—	49
ICT プロフィシエンシー検定試験合格者 (P 検)	19	—	19
障害者スポーツ指導員 (初級) 資格取得者	26	—	26
障害者スポーツ指導員 (中級) 資格取得者	15	—	15
レクリエーションインストラクター資格取得者	22	—	22
スポーツ・レクリエーション指導者資格取得者	13	—	13
共通Ⅱ & ジュニアスポーツ指導員	5	—	5
健康運動実践指導者試験受験資格	4	—	4

※P 検は、準 2 級と 3 級合格者の合計数

※上記は事務局で把握している人数であり、実際の人数はこれより多い可能性があります。

6. 就職率

(%)

学部	学科・専攻	2021 年度	2022 年度
経法商学部	経法商学科	90.0	96.9
人文学部	国際コミュニケーション学科	100.0	97.6
	福 祉 文 化 学 科	84.9	97.6
	社会福祉専攻	96.7	100.0
	健康スポーツ福祉専攻	100.0	100.0
健康栄養学部	管理栄養学科	—	96.9
計		92.3	97.7

(※2023 年 5 月 1 日現在)

7. 卒業者数・修了者数

(人)

学部	学科	卒業者・修了者数
経法商学部	経法商学科	196
人文学部	国際コミュニケーション学科	73
	福祉文化学科	107
	こども文化学科	47
健康栄養学部	管理栄養学科	73
計		496
大学院	現代沖縄研究科	1

※2022年9月卒業者数を含む

8. 卒業者数累計

卒業者数累計（1960年度～2022年度）

25,945人

※大学院修了者は含んでいない

IV. 財務の概要

当期の予算の執行状況や、財務の概況を報告いたします。なお、金額は千円未満は切り捨てとしています。

なお、差異は学校法人会計基準に基づき、予算の額から決算の額を差し引いた金額になります。

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。

資金収支計算書は、本法人の1年間の活動状況を表したものです。この活動をお金の動きで表し、年度末における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)がいくらあるかを表したものです。

資金収入には、授業料等の学費や、入学検定料、寄付金、補助金等の収入や負債となる前受金などの収入のほかすべての資金収入を計上します。

資金支出には、教職員に支払う給与、消耗品や水道光熱費等の諸経費、土地、建物、図書、機器備品の購入費等のすべての支出を計上します。

また、資金収入調整勘定とは、収入として計上しているが未収になっているもの、前受金収入として前年度まで既に受け入れている本年度の学納金などを調整するための科目です。

(単位 千円)

収入の部			
科 目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,014,965	2,084,279	△69,314
手数料収入	35,801	31,121	4,680
寄付金収入	29,548	25,903	3,645
補助金収入	604,517	590,408	14,109
資産売却収入	85,191	892	84,299
付随事業・収益事業収入	36,523	38,172	△1,649
受取利息・配当金収入	1,308	1,583	△275
雑収入	63,690	63,727	△37
借入金等収入	108,000	37,460	70,540
前受金収入	950,940	907,820	43,120
その他の収入	52,013	58,055	△6,042
資金収入調整勘定	△1,011,007	△1,007,438	△3,569
前年度繰越支払資金	2,437,306	2,437,306	
収入の部合計	5,408,795	5,269,289	139,506

在籍者数が見込みを上回ったため、予算比69,314千円増となりました。

新川校地の売却完了(予算85,000千円)が2023年度へ持ち越しとなったため、決算値が低い数値となりました。

主に、正門横駐輪場整備資金(総額58,000千円)の残額が2023年度へ持ち越しとなったため、決算値が低い数値となりました。

就学支援制度の利用者が、奨学金の決定まで学費の支払いを先延ばししたことが考えられます。

(単位 千円)

支出の部			
科 目	予算	決算	差異
人件費支出	1,414,736	1,385,506	29,230
教育研究経費支出	964,255	920,874	43,381
管理経費支出	102,697	99,425	3,272
借入金等利息支出	9,176	9,340	△164
借入金等返済支出	85,700	71,600	14,100
施設関係支出	228,344	112,467	115,877
設備関係支出	72,479	64,552	7,927
資産運用支出	61,000	61,807	△807
その他の支出	67,986	83,328	△15,342
予備費	(15,407)		
	4,593		4,593
資金支出調整勘定	△23,677	△44,089	20,412
翌年度繰越支払資金	2,421,506	2,504,479	△82,973
支出の部合計	5,408,795	5,269,289	139,506

年度前半のコロナ禍による抑制期間が影響して、教育研究経費の支出が低く抑えられる結果となりました。

アネックスの空調機と2号館と4号館を結ぶ連絡橋の未整備及び、正門横駐輪場工事の期日延長等により、予算の未執行がありました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。

事業活動収支計算書は事業活動収入及び事業活動支出の内容とその均衡を明らかにする目的で作成します。収支を経常的な収支、臨時的な収支(特定収支)に分け、経常的な収支は更に教育活動収支と教育外活動収支に分けて把握することができるようにしています。

資金収支計算書ではなく事業活動収支計算書に表れる科目としては、減価償却額や退職給与引当金などがあります。

企業会計でいえば損益計算書に相当しますが、学校会計では営利目的ではなく、あくまでも収支均衡が目的となります。

【教育活動収支】

(単位 千円)			
教育活動収入の部			
科 目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,014,965	2,084,279	△69,314
手数料	35,801	31,121	4,680
寄付金	29,548	25,903	3,645
経常費補助金	604,517	590,408	14,109
付随事業収入	36,523	38,172	△1,649
雑収入	63,690	63,727	△37
教育活動収入計	2,785,044	2,833,611	△48,567
教育活動支出の部			
人件費	1,489,330	1,469,635	19,695
教育研究経費	1,177,633	1,127,375	50,258
管理経費	108,773	107,759	1,014
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,775,736	2,704,769	70,967
教育活動収支差額	9,308	128,843	△119,534

学校法人の本業である教育活動による収支を表します。

在籍者数が見込みを上回ったため、予算比69,314千円増となりました。

健康栄養学部及び地域研究所の外部事業資金の新規獲得により、予算比1,649千円増となりました。

年度前半のコロナ禍による抑制期間が影響して、教育研究経費の支出が低く抑えられる結果となりました。

【教育活動外収支】

(単位 千円)			
事業活動収入の部			
科 目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	1,308	1,583	△275
教育活動外収入計	1,308	1,583	△275
事業活動支出の部			
借入金等利息	9,176	9,340	△164
教育活動外支出計	9,176	9,340	△164
教育活動外収支差額	△7,868	△7,757	△111

教育外活動収支は教育活動以外の財務活動(資金調達及び資産運用に係る活動)及び収益事業に係る活動による収支を表します。

【特別収支】

(単位 千円)			
事業活動収入の部			
科 目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	9	△9
その他の特別収入	4,246	3,363	883
特別収入計	4,246	3,372	874
事業活動支出の部			
資産処分差額	47,364	11,419	35,945
その他の特別支出	0	0	△0
特別支出計	47,364	11,419	35,945
特別収支差額	△43,118	△8,047	△35,071

特別収支は臨時的な収支を表すものです。施設設備補助金、現物寄付、過年度修正等の科目があります。

特別収入は、科研費によって購入した機器備品や図書の大学帰属分となります。

新川校地の売却による資産処分差額を計上していましたが、売却が2023年度に持ち越しとなったため、決算が低い数値となりました。

予備費	(6,529)		
	13,471		
基本金組入前当年度収支差額	△ 55,149	113,039	△168,188
基本金組入額合計	△ 117,338	△192,476	75,139
当年度収支差額	△ 172,487	△79,437	△93,050
前年度繰越収支差額	△ 1,601,621	△1,601,621	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,774,108	△1,681,058	△93,049

(3)貸 借 対 照 表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由をご報告いたします。

貸借対照表は、年度末(2022年3月31日現在)における本法人の財政状況を明らかにするため、法人の保有する資産、負債、基本金及び翌年度繰越消費収支差額を一覧表示したものです。

資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	5,795,474	5,782,285	13,189
有形固定資産	5,093,322	5,131,821	△38,499
特定資産	622,414	561,499	60,914
その他の固定資産	79,739	88,965	△9,226
流動資産	2,572,859	2,501,393	71,466
資産合計	8,368,333	8,283,678	84,655

このうち現預金等の昨年度比増加額は、67,173千円でした。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,100,166	1,126,059	△25,893
流動負債	1,174,733	1,177,224	△2,491
負債合計	2,274,899	2,303,283	△28,384
基本金	7,774,492	7,582,016	192,476
繰越収支差額	△1,681,058	△1,601,621	△79,437
純資産合計	6,093,433	5,980,394	113,039
負債及び純資産の部合計	8,368,333	8,283,678	84,655

長期借入金は毎年順調に返済しております。

土地、建物に関する支出及び借入金返済、機器備品のリース支払い分が主な組入となります。

基本金について

学校法人は、設置する学校の教育研究やその他の諸活動を行うために校地、校舎、機器備品、図書等の資産を保有しています。そして、それら保有資産のうち教育研究に必要な資産は、教育水準の維持向上と円滑な法人運営を図る観点から常に維持しなければならないことになっています。法人が存続する限り、それらの資産を保有することとなりますが、事業計画の変更・見直し等により基本金の取り崩しが可能になっています。このように、必要な資産の維持状況を表したものが基本金です。

注記

1.重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能及び貸付金の回収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額598,406,611円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

(2)その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金その他経過項目に係る収入と支出は相殺して表示している。

2.重要な会計方針の変更等

該当なし

3.減価償却額の累計額の合計額

2,553,058,726 円

4.徴収不能引当金の合計額

0 円

5.担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土地 1,776,226,557 円

建物 1,687,270,642 円

6.翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

316,684,650 円

7.当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8.その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)有価証券の時価情報

①総括表

(単位 円)

	当年度(2023年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	-	-	-
(うち満期保有目的の債券)	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	53,829,636	38,599,200	△ 15,230,436
(うち満期保有目的の債券)	-	-	-
合計	53,829,636	38,599,200	△ 15,230,436
(うち満期保有目的の債券)	-	-	-
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	53,829,636	-	-

②明細表

種類	当年度(2023年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	-	-	-
株式	53,829,636	38,599,200	△ 15,230,436
投資信託	-	-	-
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合計	53,829,636	38,599,200	△ 15,230,436
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	53,829,636	-	-

(2)関連当事者との取引

該当なし

(4) 経年比較表

① 資金収支計算書

(単位: 千円)

資金収支計算書			
科目	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒納付金収入	1,853,568	1,918,529	2,084,279
手数料収入	29,831	33,309	31,121
寄付金収入	33,403	27,993	25,903
補助金収入	500,831	565,986	590,408
資産売却収入	191	623	892
付随事業・収益事業収入	40,523	44,508	38,172
受取利息・配当金収入	2,689	1,667	1,583
雑収入	75,262	70,667	63,727
借入金等収入	0	0	37,460
前受金収入	939,497	966,292	907,820
その他の収入	17,359	68,427	58,055
資金収入調整勘定	△ 1,032,861	△ 957,474	△ 1,007,438
前年度繰越支払資金	2,513,431	2,362,621	2,437,306
収入の部合計	4,973,725	5,103,148	5,269,289
人件費支出	1,387,658	1,409,217	1,385,506
教育研究経費支出	896,164	866,936	920,874
管理経費支出	84,097	94,755	99,425
借入金等利息支出	10,605	9,925	9,340
借入金等返済支出	52,850	71,600	71,600
施設関係支出	58,032	110,229	112,467
設備関係支出	96,460	54,917	64,552
資産運用支出	34,479	40,401	61,807
その他の支出	76,452	78,449	83,328
資金支出調整勘定	△ 85,693	△ 70,586	△ 44,089
翌年度繰越支払資金	2,362,621	2,437,306	2,504,479
支出の部合計	4,973,725	5,103,148	5,269,289

②事業活動収支計算書

【教育活動収支】

(単位:千円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	1,853,568	1,918,529	2,084,279
手数料	29,831	33,309	31,121
寄付金	33,403	27,993	25,903
経常費補助金	500,831	565,986	590,408
付随事業収入	40,523	44,508	38,172
雑収入	75,262	70,662	63,727
教育活動収入計	2,533,419	2,660,987	2,833,611
事業活動支出の部			
人件費	1,385,498	1,407,453	1,469,635
教育研究経費	1,107,700	1,082,793	1,127,375
管理経費	93,803	104,063	107,759
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,587,001	2,594,309	2,704,769
教育活動収支差額	△ 53,583	66,678	128,843

【教育活動外収支】

(単位:千円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	2,689	1,667	1,583
教育活動外収入計	2,689	1,667	1,583
事業活動支出の部			
借入金等利息	10,605	9,925	9,340
教育活動外支出計	10,605	9,925	9,340
教育活動外収支差額	△ 7,916	△ 8,258	△ 7,757

【特別収支】

(単位:千円)

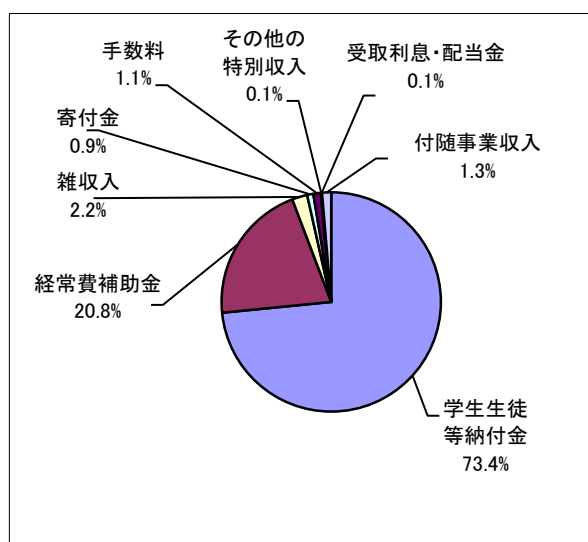
科目	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入の部			
資産売却差額	3	0	9
その他の特別収入	4,584	1,790	3,363
特別収入計	4,587	1,790	3,372
事業活動支出の部			
資産処分差額	8,968	14,797	11,419
その他の特別支出	0	29	0
特別支出計	8,968	14,827	11,419
特別収支差額	△ 4,380	△ 13,037	△ 8,047

科目	2020年度	2021年度	2022年度
基本金組入前当年度収支差額	△ 65,879	45,383	113,039
基本金組入額合計	△ 176,548	△ 188,185	△ 192,476
当年度収支差差額	△ 242,427	△ 142,802	△ 79,437
前年度繰越収支差額	△ 1,216,382	△ 1,458,809	△ 1,601,621
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,458,809	△ 1,601,611	△ 1,681,058

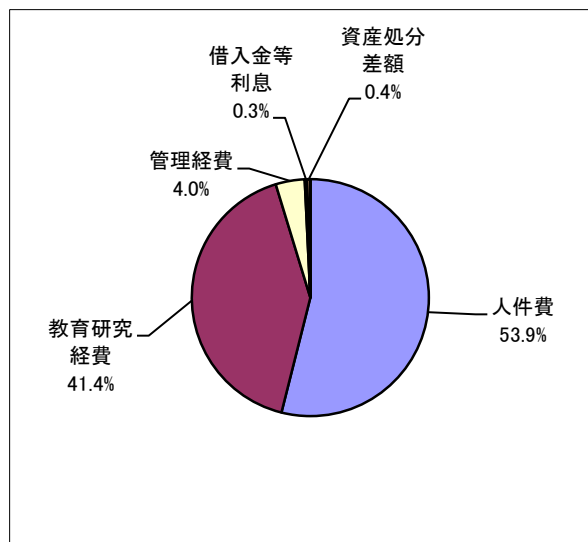
(参考)

事業活動収入計	2,540,695	2,664,443	2,838,566
事業活動支出計	2,606,574	2,619,060	2,725,527
経常収入	2,536,108	2,662,653	2,835,194
経常支出	2,597,606	2,604,234	2,714,108

事業活動収入構成比率(総額:2,833,611千円)



事業活動支出構成比率(総額:2,704,769千円)



③貸借対照表

貸借対照表			
科目	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	(5,820,425)	(5,782,285)	(5,795,474)
有形固定資産	5,197,054	5,131,821	5,093,322
特定資産	524,955	561,499	622,414
その他の固定資産	98,415	88,965	79,739
流動資産	(2,429,560)	(2,501,393)	(2,572,859)
現金預金	2,362,621	2,437,306	2,504,479
その他の流動資産	66,939	64,087	68,379
資産の部合計	8,249,984	8,283,678	8,368,333
固定負債	(1,209,454)	(1,126,059)	(1,100,166)
流動負債	(1,105,509)	(1,177,214)	(1,174,733)
前受金	947,997	1,008,792	967,320
その他の流動負債	157,512	168,422	207,413
負債の部合計	2,314,963	2,303,273	2,274,899
基本金	(7,393,831)	(7,582,016)	(7,774,492)
第1号基本金	7,061,831	7,191,016	7,353,492
第2号基本金	200,000	200,000	230,000
第4号基本金	132,000	191,000	191,000
繰越収支差額	(△1,458,809)	(△1,601,611)	(△1,681,058)
純資産の部合計	5,935,022	5,980,404	6,093,433
負債及び純資産の部合計	8,249,984	8,283,678	8,368,333

(5) 主要な財務比較

8) 主要な財務比較

事業活動収支計算書				貸借対照表			
指標	2020年度	2021年度	2022年度	指標	2020年度	2021年度	2022年度
人件費比率 人件費÷経常収入	54.6	52.9	51.8	固定資産構成比率 固定資産÷総資産	70.6	69.8	69.3
人件費依存率 人件費÷学生生徒等納付金	74.7	73.4	70.5	有形固定資産構成比率 有形固定資産÷総資産	63.0	62.0	60.9
教育研究費比率 教育経費÷経常収入	43.7	40.7	39.8	特定資産構成比率 特定資産÷総資産	6.4	6.8	7.4
管理経費比率 管理経費÷経常収入	3.7	3.9	3.8	固定負債構成比率 固定負債÷ (負債+純資産)	14.7	13.6	13.1
借入金等利息比率 借入金利息÷経常収入	0.4	0.4	0.3	流動負債比率 流動負債÷ (負債+純資産)	13.4	14.2	14.0
事業活動収支差額比率 基本金組入前当年度収支差額 ÷事業活動収入	△ 2.6	1.7	4.0	純資産構成比率 純資産÷ (負債+純資産)	71.9	72.2	72.8
基本金組入後収支比率 事業活動支出÷(事業活動収入-基本金組入額合計)	110.3	105.8	103.0	繰越収支差額比率 繰越収支差額÷ (負債+純資産)	△ 17.7	△ 19.3	△ 20.1
学生生徒納付金比率 学生生徒等納付金÷経常収入	73.1	72.1	73.5	固定比率 固定資産÷純資産	98.1	96.7	95.1
寄付金比率 寄付金÷事業活動収入	1.3	1.1	0.9	固定長期適合率 固定資産÷(固定負債+純資産)	81.5	81.4	80.6
経常寄付金比率 (教育活動収支の寄付金)÷ 経常収入	1.3	1.1	0.9	流動比率 流動資産÷流動負債	219.8	212.5	219.0
補助金比率 補助金÷事業活動収入	19.7	21.2	20.8	総負債比率 総負債÷総資産	28.1	27.8	27.2
経常補助金比率 (教育活動収支の補助金)÷ 経常収入	19.7	21.3	20.8	前受金保有率 現金預金÷前受金	249.2	241.6	258.9
基本金組入率 基本金組入額÷事業活動収入	6.9	7.1	6.8	減価償却比率 減価償却累計額÷ 減価償却資産取得価額	45.7	46.9	49.7
減価償却額比率 減価償却額÷経常支出	8.5	8.6	7.9	積立率 運用資産÷要積立額	103.6	99.6	81.6
経常収支差額比率 経常収支差額÷経常収入	△ 2.4	2.2	4.3	運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋ 2号基本金＋3号基本金			
教育活動収支差額比率 教育活動収支差額÷ 教育活動収入計	△ 2.1	2.5	4.5				

経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
 経常支出＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

(6) 事業活動収支関連グラフ

